



町長日誌 No.31

町長日誌の第31号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

2月18日(土) PM2:00

今日は土曜日ですが今週は温根湯、網走、札幌への出張と葬儀が続き席を温める暇のない一週間でした。今、ラジオを聴きながらこの日誌を書いています。

最近、道が人件費をカットしたり、道庁と開発局の統合、更には市町村合併の組み合わせが示されたりと毎日、新聞を賑わせていますが、これらのことがどれほど北海道の将来そして道民の生活向上に役立つことなのか、疑問に思う今日この頃です。現在180%の食料自給率を北海道は達成していますが、肉、米、魚や野菜の価格は依然として東京中心で決まります。また、友好都市であるカナダの人に聞くと秋になり木々の葉は黄色くなるのが普通で、北海道に来て紅く色づくのが珍しく松の緑と紅葉とのコントラストは絶景なのだそうです。また、冬のパウダースノーも台湾・中国・韓国そしてオーストラリアの人にはヨーロッパに出かけるよりも安く・近いと言うことで観光客は倍増しているそうです。これだけを見るとまるで北海道はフランスに似た条件を備えているようにも思えます。そう言えば、池田ワインを始め沢山の地域ワインが北海道にありますし、チーズも増えてきました。こう考えますと今、北海道が取り組まなければならないのは、与えられた自然の恵みを様々な生業（付加価値）を育てて、2倍にも3倍にもする。つまりは「働くところ」を育てることなのです。20年いや50年かかるかもしれませんが、そういう夢のあるビジョンを北海道のリーダーには示していただきたいと新聞を見ながら思いました。

1月23日(月)

18年度の予算案が三役会議（町長・助役・教育長）で決定しました。

相変わらず交付税の増減で予算の規模が決まる状況には変わりませんが、一般会計で昨年とほぼ同額の「37億8,100万円」としました。大きな事業は今年も特にはありませんが、お蔭様で18年度末には起債（借金）の残高が100億円を割ることになります。この予算案は3月定例町議会で審議され決定する予定です。

2月9日(木)

道議会民主党とフロンティアに所属する議員の皆さんによる「道立病院の現況調査と医師確保対策調査」のための懇談会がありました。

私からは、「地方の病院で道職員として医師を確保するには給与の面で限りがあり非常に難しいことがはっきりしてきた、ならば道の支援を頂き民営化を含め新たな病院のあり方を早急に検討すべきと思う。また、遠軽厚生病院や名寄市立病院と連携することを視野に入れた病院機能の形を検討すべきだ。」と申し上げました。道議会議員の皆さんも、他の町村長もほぼ同じ意見でした。後は病院所在地である紋別市のご決断次第であると、私は思っています。

私事で恐縮ですが、2月2日午後5時59分、初孫が誕生しました。吹雪模様の中、車で名寄市立病院に向いましたが1時間以上かかります。道立病院でお産が出来ないことを肌身で感じました。病院に着いたのが8時半を回っていました。面会は8時までなのですが、なんとか生まれたばかりの赤ちゃん頑張った嫁さんの顔を見ることができました。新たな生命の誕生に感謝・感謝でした。

すっかり日差しも春らしくなってきました。とうとう流氷も着岸せずに南下しそうです。税金の申告も始まり出歩く機会も増えるかと思えます。インフルエンザも少し遅れて流行っているようですので、手洗いとうがいで元気に過ごしましょう！ では、また。



町長のメールアドレスは、mayor@town.okoppe.hokkaido.jpです。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。